

緊急稲作情報

平成30年7月20日
越後さんとう農業協同組合
電話番号 (0258) 41-2887

- ① 高温・多照の影響により葉色が急激に低下し、“品質低下”が懸念されます!!
- ② 2回目穂肥を確実に施用し、後期栄養の確保・品質向上に努めましょう!!

1. 生育概況

6月下旬以降、高温・多照の天候が続いていることから、葉色値が急激に低下（7/10 調査 平均値 SPAD：36.4 から-4.1 ポイント）しています。コシヒカリ1等級比率が3.1%にとどまった平成22年産と同じような生育ステージをたどっています。今後も高温気象が予想され、後期栄養の不足や飽水管理の不徹底による“著しい品質低下”が懸念されます。

《コシヒカリ生育調査結果：平成30年7月19日調査》

項目	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (L)	葉色 (SPAD)
寺泊	5月7日	82.9	381	11.7	32.5
和島	5月5日	78.8	324	11.6	31.6
出雲崎	5月5日	85.5	338	12.1	32.6
与板	5月11日	86.4	417	11.8	31.2
三島	5月9日	81.5	441	11.1	31.6
こしじ	5月13日	77.3	399	11.9	33.5
本年管内平均	5月8日	81.5	379	11.7	32.3
生育指標値	5月10日	79.0	410	11.9	34.0

＜生育指標値比＞草丈：並み～やや長い 茎数：やや少ない 葉数：並み 葉色：淡い

2. 後期栄養確保対策

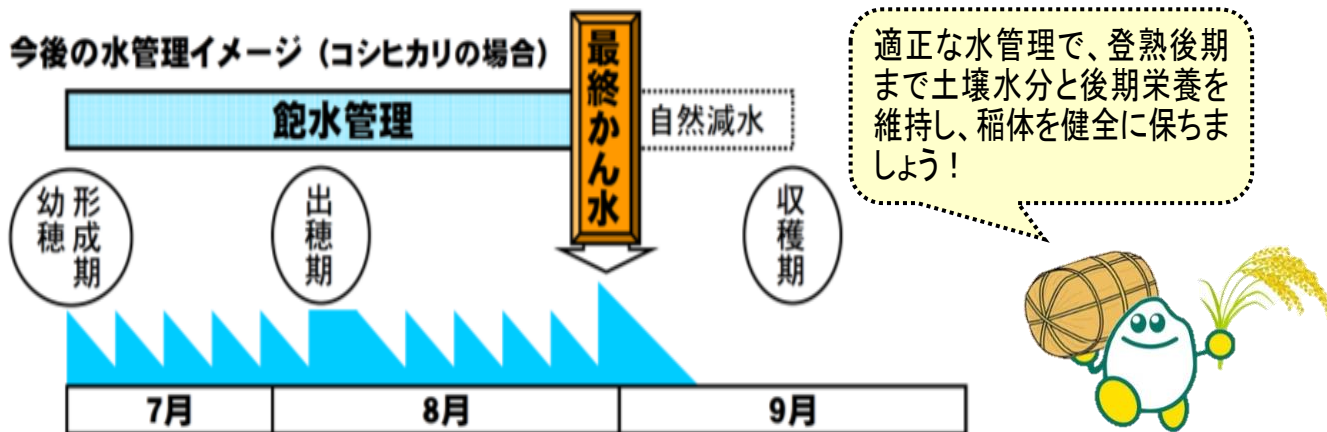
◆ 穂肥対応 2回目穂肥のしっかり施用で後期栄養の確保・品質向上！

- ① コシヒカリで、●1回目穂肥を見送ったほ場、●これから1回目穂肥を施用するほ場は、幼穂長が1cm以上になっていることを確認し、葉色が淡い場合は、ただちに施用して下さい。
- ② 出穂前10日頃の穂肥は、草丈の伸長や倒伏に影響しないので、後期栄養不足による品質低下防止のため、確実に施用（窒素成分1~1.5kg/10a）してください。（1回目穂肥が出穂前18日より遅れた場合は、1回目穂肥の7日後を目安に2回目を確実に施用してください。）
※ 早生品種で、葉色の低下の著しい圃場は、早急に追加穂肥を施用してください。
- ③ 出穂期までに葉色値が30を下回ると予想される場合は、出穂前3日までに追加穂肥（県認証基準の範囲内で窒素成分1kg/10a）を施用してください。
※ 基肥一発肥料の場合も同様の対応とします

3 水管理

◆ 水管理 高温下での長期間の“タメ水”管理は厳禁です！

- ① 田面の白く乾いたほ場が見受けられます。全ての品種で最も水分を必要とする幼穂形成期～出穂期を迎えています。飽水管理を徹底し、根の機能維持・稲体の健全化に努めましょう。
- ② 地耐力が確保出来る限り、登熟後期まで飽水管理を継続し、光合成に必要な水分の供給を可能な限り収穫直前まで行いましょう！



4 病虫害対策

◆ 斑点米カメムシ対策

7月前半のすくい取り調査では、新潟県内でも特に中越地域における確認地点率が平年比：「高い」状況であるとともに、水田内の発生量（虫数）も平年比「多い」状況となっており、斑点米被害の多発生が懸念されます。

- I. 本田内に雑草が発生しているほ場は、速やかに草取りを実施して下さい。
- II. 共同防除前までに畦畔雑草が再発生する場合は、再度草刈りを行って下さい。
- III. 稲が出穂した後も、雑草種子が結実しない間隔で草刈りを継続して下さい。

◆ 紋枯病対策

病虫害予察調査において、紋枯病の発生が多数のほ場で確認されています。今後も高温・多照の天候が続くと、さらに紋枯病の進展が進み、ほ場内や上位葉鞘へと侵入・拡大します。紋枯病が確認された場合は、早期の防除を行いましょう！

【発病率1割程度（目安：25株中3株発病）】

薬剤名	対象病害等	希釈倍数	備考
バリダシン液剤5	紋枯病	1000倍	治療剤 ※収穫14日前まで

★★ 水稻の“生育診断”はJAにお任せください！★★

生育診断チーム 設置期間：7月下旬頃まで

～ 詳細につきましては、お気軽に最寄りの営農センターへお問い合わせください！～